

# 3 県民のあゆみ

山形県広報誌  
令和4年3月号  
No.626



山形県広報誌  
令和4年3月号  
No.626

3

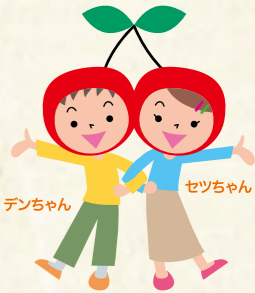
奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課  
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子  
県ホームページアドレス <https://www.pref.yamagata.jp/>



## やまがた でん せつ 伝説 DENSETSU

ゆた 豊かな自然、山形県民の知恵と  
ど りょく 努力に培われた日本有数の  
こめ 米どころ“山形県”の米づくり!



全国有数の米どころ庄内地方では、712年に  
てから本格的な米づくりが始まりました。稲の生育に必要な夏の暑さ、豪雪がもたらす豊富な水、肥沃な土壌に恵まれ、米の名産地として知られてきました。米穀保管庫「山居倉庫」は1893年に建てられ、お米と交換できる「米券」を発行。品質のすぐれた米が多かったため、信用が高く、日本で一番有名な「米券倉庫」になりました。現在も創業当時の景観を残し、日本の近現代にお

ける米の流  
通の歴史を  
伝える貴重  
な存在として、  
2021年3  
月、国の史  
跡に指定さ  
れました。



山形で米づくりが本格的に  
始まったのは、奈良時代に!



苗10万個体から  
選抜されたつや姫は、  
米どころ山形の名産を  
全国に知らしめた!?

山形米の評判をさらに高めたのが、2010年秋にデビューしたオリジナルブランド米「つや姫」です。誕生まで12年の歳月を要し、現在、11年連続で食味ランキング最高評価の「特A」を更新中。2020年には、一等米比率でも日本一に輝きました。「つや姫」の特長を表現するために、山形で生まれた食味評価の指標である「白さ」と「光沢」は、他県での品種開発でも参考にされています。

山形県の米の新品種と栽培技術の開発を担っているのが、鶴岡市にある「山形県農業総合研究センター水田農業研究所」。一昨年、創立100周年を迎えました。本県の主力品種である「はえぬぎ」、「つや姫」と弟分の「雪若丸」のほか、酒用、もち用、飼料用など23品種もの米がここで生まれました。近年は、苗の段階で病気に強い遺伝子の有無を調べるなど、先端技術を活用した品種改良も行われています。



山形県の米がおいしい理由は、  
豊かな自然環境  
だけじゃない!

栽培しやすく、  
食べておいしい、  
新しい品種づくり  
に取り組んでいます。

山形の米についてお話をお聞きした  
中場 勝さん  
山形県水田農業研究所所長

山形の米は、収量・品質・食味の3拍子がそろい、つねに全国トップクラス。作付面積では全国6位にも関わらず、収穫量は4位、これは、生産者の意識や栽培技術が高いことの証です。私たちが開発し、農家の方が一生懸命作ったお米をぜひたくさん食べてください。

やまがた伝説は今月号が最終回となります。次号からは新シリーズをお届けします。どうぞ期待!



広告

- 2 県民の皆さまへ 新型コロナウイルス感染症関連情報
- 4 特集 次代を担う新ビジネスの創出に向けて
- 8 奏であう人 山形から世界へ、これからの観光を考える
- 16 やまがた伝説 米づくり

本県の新たな創業支援拠点「スタートアップステーション・ジョージ山形」に集う若き起業家の皆さん。県では、新たなビジネスの創出や創業を促し、安定的な経営、雇用の確保を通して、地域経済の発展を図るための取り組みを進めています。

※撮影時のみマスクをはずしています。